令和8年度 全国学力・学習状況調査（6年生）の結果と今後の取組

小城市立三里小学校

国 語 の 概 要

〇国語全体の正答率は、県の平均正答率を**大きく上回り**、全国に対しては**やや上回り**ました。

・内容ごとに細かく見ると、〔知識及び技能〕の「（1）言葉の特徴や使い方に関する事項」と〔思考力、判断力、表現力等〕の「B 書くこと」の領域が県・全国共に正答率を**大きく上回り**ました。「A 話すこと・聞くこと」は県を**大きく上回り**、全国に対しては**やや上回り**ました。

・評価の観点では、「思考・判断・表現」が県・全国共に正答率を**大きく上回り**、「知識・技能」は県を**大きく上回り**、全国を**やや上回り**ました。

分 析 結 果 と 本 校 の 課 題 に つ い て

（〇◎は優れた点、●は課題のある点）

（1）言葉の特徴や使い方に関する事項	（2）情報の扱い方に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと
◎学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことがよくできていました。	◎考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することがよくできていました。 ●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに課題が見られました。	◎相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることがよくできていました。	◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることがよくできていました。	◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることが全員できていました。 ●目的に応じて、必要な情報を見付けることに課題が見られました。

今 後 の 対 応

・「（2）情報の扱い方に関する事項」と「B 読むこと」の領域に関して、「何のために読むのか」「どの情報を探すのか」を事前に共有し、読む目的を明確にしてから資料に向かわせるよう徹底します。図表の読み取りは“慣れ”が必要であり、日常的に扱うことで関係付けの力が伸びることから、図表と言語情報を結び付ける学習活動を意図的に取り入れていきます。

算 数 の 概 要

〇算数全体の正答率は、県の平均正答率を**大きく上回り**、全国に対しては**ほぼ同じ**でした。

・領域ごとには、「A 数と計算」が県の正答率を**大きく上回り**、全国に対しては**やや上回り**ました。「B 図形」は、県・全国を**大きく上回り**ました。

・評価の観点においては、「思考・判断・表現」が県を**大きく上回り**、全国に対しては**やや上回り**ました。

分 析 結 果 と 本 校 の 課 題 に つ い て

（〇◎は優れた点、●は課題のある点）

A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用
◎小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることが全員できていました。 ●整数と小数の減法の計算をすることに課題が見られました。	◎立方体の体積の計算による求め方が全員できていました。 ●体積の意味についての理解に課題が見られました。	〇示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることがおおむねできていました。	〇百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることがおおむねできていました。 ●単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断することに課題が見られました。	◎示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述することがよくできていました。 ●二次元の表から、条件に合う数を読み取ることに課題が見られました。

今 後 の 対 応

・「A 数と計算」の領域に関して、必ず桁をそろえる操作を計算前に徹底させます。

・「B 図形」の領域に関して、1㎤の立方体ブロックを実際に積むことや箱にブロックを詰めて「どれだけ入るか」を調べるなど具体的操作活動を通して、体積を“空間の量”として実感させる活動を取り入れ、体積は面積の延長であることを理解させていきます。

・「C 変化と関係」の領域に関して、「1㎡あたり〇人」「1人あたり〇㎡」など商が表す意味を言語化させ、単位量あたりの意味や除法の意味をしっかりと捉えさせます。

・「D データの活用」に関して、授業や特別活動等の中に、二次元表を必要とする活動を意図的に仕組み、書き方や読み取りの手順を明確に指導していきます。

生活習慣に関する調査の結果と今後の取組 「質問紙（意識）調査から」

【数値が特に高かった項目（肯定的に捉えている項目）】

質問番号	調 査 の 項 目
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。
8	自分には、よいところがあると思いますか。
9	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

11	人が困っているときは、進んで助けていますか。
12	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
15	学校に行くのは楽しいと思いますか。
17	友達関係に満足していますか。
20	あなたの学級では人と違う意見を言っても否定されないと思いますか。
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。
27	昼休みや放課後に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室にどれくらい行きますか。
36-1	あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成することができると思いますか。
36-4	あなたは自分が PC・タブレットを使って学校での活動でプレゼンテーションを作成することができると思いますか。
38	自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。
39	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。
42	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。
44	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。
45	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。
46	友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。
47	総合的な学習では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。
49	学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。
50	学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。
51	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。

【数値が低かった項目】

質問番号	調 査 の 項 目
30	新聞をどれくらい読んでいますか。

1.調査結果の概要

生活習慣、自己肯定感、人間関係、学習への主体性、協働性、ICT 活用など、学校教育の基盤となる多くの項目で肯定的な回答が得られました。一方で、「新聞をどれくらい読んでいますか」の項目のみが相対的に低く、情報との接し方に関する課題が示されました。

2.分析結果　※(　)は関連する質問番号

①家庭での生活リズムが安定しており、授業への集中や意欲に良い影響を与えていることが分かりました。(3,21)

②自己肯定感が高く、教師からの承認も感じられていて、学校生活への安心感が強いことが分かりました。(8,9,15,17,20,21,46)

③学級の人間関係が安定していて、協働的な学習が成立しやすい環境が整っていると言えます。(11,12,14,46,49,50,51)

④主体的に学び、対話で深め、振り返りを行い、学びを実生活に結びつけるという一連の学習プロセスが肯定的に評価されていて、学校全体で「深い学び」を意識した授業改善が進んでいると考えられます。(38,39,42,43,44,45、49,50,51)

⑤ICT 活用に対する自己効力感が高く、GIGA スクール構想の成果が表れていると言えます。(36-1,36-4)

3.今後の対応

・「きらり三里っ子」といった「よいところ見つけ」活動を今後も充実させながら、全教師による承認の継続を図ります。また、道徳での自己理解・他者理解に力を入れながら、個性を認め合う学級づくりに努めます。

・自分の考えを分かりやすい方法で説明したり、友達と比較したりする活動を取り入れ、話し合い活動の質の向上を目指し、協働的な学級風土の強化を図ります。

・学年や発達段階、児童の実態に応じて ICT を、必要に応じて効果的に活用していきます。

・新聞を読む習慣は低いことから、授業で新聞記事を扱う場面を取り入れたり、子ども向け新聞を活用したりしながら、時事問題への関心を高める取組を推進します。